

石狩湾系ニシンの漁況予報

北海道立総合研究機構 中央・稚内水産試験場

平成29年12月4日

石狩湾系ニシンの今漁期（平成30年1～3月）における漁況は、次のようになる見通しです。

- 石狩湾沿岸域では、漁期序盤（1月）の高齢・大型群（6年魚以上）の来遊量は昨漁期並～やや上回る水準となる見通しです。ただし、この時期の漁況は直近の海況に大きく影響されます。
- 漁期中盤（2月）は4年魚（2014年級）主体に来遊があり、今漁期はこの年齢群の来遊量が最も多くなり盛漁期となる見通しです。
- 漁期終盤（3月）に来遊する3年魚（2015年級）の来遊量は昨漁期には及ばないとみられますが、漁獲対象となるサイズは近年では比較的多くなる見通しです。
- 漁獲の主対象である4年魚以上の資源重量は、2009年度以降の高い水準にあるとみられます。

後志以北日本海沿岸に来遊する産卵群の全体動向の予報であり、海域により来遊傾向は大きく異なります。

本年10月に留萌沖で実施した稚内水試試験調査船「北洋丸」によるトロール調査の採集物は、尾又長28cmにモードのある4年魚（2014年級）が60%、31cm以上の6年魚以上が23%を占めました（下図）。他漁業の操業との兼ね合い等により、ニシン分布域での調査点数が少なくなり十分な標本数が得られませんでした。比較的採集量の多かった調査点の情報に基づいて来遊状況を予測しました。

これまでの漁獲実績に基づいた資源計算とトロールの採集状況から、各年齢の資源尾数を昨漁期（H29年）と比べると、漁期序盤（1月）に来遊する6年魚以上の大型群は同程度～やや増加、5年魚は大きく減少、4年魚は大きく増加すると予測されました。近年の漁獲主体となっている4年魚以上の資源重量としては、今漁期も2009年度から続く高い来遊水準の範囲にあると推定されました。

漁模様は漁期直前の海況に大きく左右されるため、今漁期も地域間で好・不漁感の違いが大きくなると予想されますが、石狩湾沿岸では水温分布等に大きな異変がなければ序盤は6年魚以上（体重330g以上）主体の漁となり、2月は4年魚（体重250～280g程度）に来遊の主体が移って、今漁期はこの年齢群の来遊が最も多く、盛漁期となる見通しです。

一方、2月末から3月に来遊する3年魚（2015年級）はトロール調査では採集が多くありませんでしたが、2014年級同様に成長が良いため2.0寸以上の網目でも漁獲される可能性が高く、昨期には及ばないものの、近年の中では漁獲対象となる資源が比較的多くなるのではないかと考えられます。

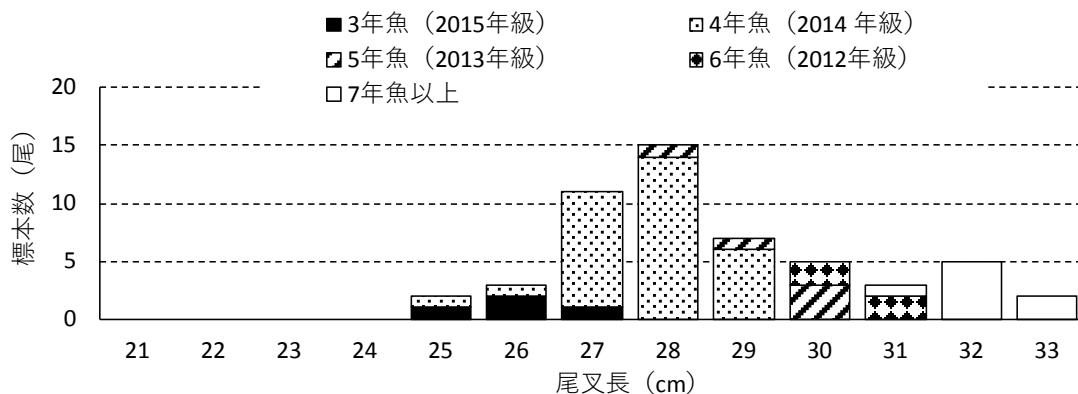


図 本年10月に留萌沖のトロール調査（北洋丸実施）で採集されたニシンの年齢別尾又長組成

お問い合わせ：中央水試資源管理部（☎0135-23-8707）